

尚
心術ハ甚だ不充多ク
分暑氣の強きヨ因却
本多廿七日祭の汽船
大可仕ル

アードル赴五ハウス氏
頗る懇切ある待遇
疾病ハ依然たる様子

ア分不ハ変リあまきものと
九気多ク種々面白き
述りれ大子益を得
序ハ有之ルを可然快
交々草々辞具

紐育存
益々
行旅
隈先生侍史

ハハ一三

護啓爾後頗と申多き事お打退ハ

般快海客よりう、小生儀奉年中ハ

英函ハ蟄居の覺悟あり芝般来

希地ハ滞留此在リ伯九別般

見物まき事扱も無之ルま、

素癖~~再~~再祭昨今日日々漆

まのみ致居候也し奉玉ハ在ると

遠ハ何ハ蚊と身体を勞するも

扱多きか為め運動充足するが

~~為~~め小や身体ハ至極強壯ハ有

之ハ皆乍悼申休神に事下云、

相良大ハハハ君ハ無事の趣

是日高柳陶造也ナリま面

有之候

今回ハ條約改正の件ヲ付英米

人の意見を折衷したる愚見

ハ朝野社まで記送仕リ有

美一餘暇を以て傍一覽の上伏

是正を賜ハハハ心難有奉存、

本國政治上の形勢ハ至極面白

きヤハ遙定察致リ有ハ何分事

情を詳カハ申ハハハハハハ隔

靴搔癢の感ハ堪不申候

下末筆令夫人ハ可然申傳声

交々草々辞具

九月十二日
英京
行旅
大隈先生侍史